

# 図書波だより

第 53 号

平成10年6月30日  
愛媛大学附属図書館

## 目 次

学生に読ませたい図書の紹介について (Part 2).....1	ホームページから.....18
やはりこの一冊を(館長).....1	平成10年度 開館予定表
法文学部教官.....2	訂正とお詫び.....18
教育学部教官.....6	We b O P A C 説明会を実施.....18
理学部教官.....9	平成9年度附属図書館統計.....19
医学部教官.....12	附属図書館委員会委員.....20
工学部教官.....12	夏季休業中の開館日時について.....20
農学部教官.....16	図書の特別(長期)貸出について.....20
	図書館日誌.....20
	人事異動.....20

## 学生に読ませたい図書の紹介について (Part 2)

昨年、図書館だより第49号(平成9年6月30日発行)に掲載し、図書館ホームページ(<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/SHOKAI/index.html>)にも紹介しております「学生に読ませたい図書の紹介」のPart 2としてたくさんの教官から図書を紹介していただきました。

夏休みにむけて学生の読書案内として是非ご利用ください。

図書の\*マークは、(平成10年6月30日現在)図書館(医・農分館含む)所蔵を示しております。また、所蔵していない図書は、可能なかぎり購入・整理して開架室に備え付ける予定です。

## や は り こ の 一 冊 を

小 西 永 倫

戦争(第二次大戦)の風化が叫ばれはじめてから、また更に時が流れた。時は止めようがない以上、それも一面では仕方のないことだろう。「戦争」という言葉に気を止めることもなく、「飽食」の批判も聞き流せる時代とは、やはり幸せな時代であろう。そして幸せを満喫していけない理由はどこにもない。だから決して皮肉ではなく、学生諸君の「幸せ」を私は黙って眺めているつもりである。

だが、とまた一方で私はつぶやきたくなる。お説教の羅列をしたくはないが、「学生達、

このようなお客さん気分でいいのだろうか」と時々不安になる。いや、私自身も偉そうなことが言えるほど、常時身を引きしめているとはとても言えない。そのような時、お互いに忘れないようにしたい本が「日本戦没学生の手記」たる『きけ わだつみのこえ』ではなかろうか。

本書についての饒舌な解説は不要であろう。下手な解説で本書を汚してはならない。最初の頁から順を追って読むのもよいし、任意の頁をあけてみるのもいいだろう。どこを

開いても、戦場で不帰の客となった諸君の「先輩達」の生の声が聞こえてくる。諸君は六つの学部 of のどれかに属し、それぞれ専攻を決めておられるだろう。本書の「学徒兵」たちの専攻も多種多様である。ただ大きなちがいは、すべてが一切の例外なく、その専攻を中断されたということである。

「プロログ」も「エピログ」も、偶然のことながら「経済」専攻の学徒出身者である。前者は「ファシズムのイタリアは如何、ナチズムのドイツもまた、既に敗れ」と知りながら、終戦直前の1945年5月11日に、特攻隊員として突入した学徒の最後の手記。そして後者は、何と終戦の翌年に、無実の罪を押しつけられて、シンガポールの刑務所で処刑された学徒兵の、これも処刑直前までの手記である。(紙に書くことが許されず、書物の余白にぎっしりと書きこまれていたものである。「若さ」が、逃れる術を教えなかったのか、

或いはそれを拒否させたのか。しかも戦争はすんでいるというのに。)

また、ある「農学」の出身者は、上官の命令による残虐行為を目の当たりにして「俺の子供は、もう軍人にはしない、軍人だけは・・・」と認め、また「英文」専攻者は戦死した南の戦場から妻にこう書き送っている。「君の容貌、性格、気質など総てが何よりも美しく感じ、好きなんだ。おそらく世界中に無比なものに見えて仕方がないのだ」と。

座右において常時読むのは、正直息がつまるかもしれない。正座して、襟を正して読まなくても、「先輩達」は、怒りはしないだろう。コンパもいいし、バイトもいいが、でも忘れないようにしようではないか。そして、もしまだの学生諸君は、ぜひ一度は目を通していただきたい。(「岩波文庫」に入っている。)

(こにし えいりん 図書館長)

## 法文学部

南 充彦 教官 (政策情報科学)

### 1) 外交 (上・下)

ヘンリー・A・キッシンジャー著

岡崎久彦監訳

日本経済新聞社 1996

ヴェルサイユ体制はなぜ失敗したか。その原因は通説に反して、ドイツを地政学的に強化したことにある、等々、随所に鋭い知見がちりばめられた、まさに「目から鱗が落ちる」歴史書である。

### 2) ソヴィエトの悲劇 (上・下) : ロシア

における社会主義の歴史1917~1991

マーティン・メイリア著 白須英子訳

草思社 1997

社会主義とは何だったのか、スターリンがいなかったら社会主義はもっとまともなものになっていたのだろうか、こうした20世紀最大の謎に答える本格的な歴史書である。

### 3) 「江戸は夢か」(ちくまライブラリー 79)

水谷三公著 筑摩書房 1992

江戸時代は「士農工商」の秩序原理の下に統治されていた、というのは学校で教えられた常識である。しかし、江戸時代を扱った最近の読み物やドラマを見ても分かるように、現実はずしこの図式通りではなかった。該博な学識と教養に裏打ちされながら、軽妙かつ洒落に江戸時代を活写した読物となっている。

### 4) 海峡は越えられるか: 日韓歴史論争

桜井よしこ、金岡基著

中央公論社 1997

明治以降の日本の正確な歴史を知るための格好の入門書。

### 5) プラハの春

春江一也著 集英社 1997

非人間的な共産主義体制に対して戦うチェコの美貌の女性と、彼女を助けようとして奔走する日本人外交官との、愛と友情の物語である。現役外交官が自らの経験を下に執筆した歴史小説である。

**福井 秀樹 教官 (政策情報科学)**

1) 不遇なる一天才の手記 (岩波文庫)

ヴォーヴナルグ著 関根秀雄訳

岩波書店 1955

ヴォーヴナルグの著者を貫く精神を一言であらわすとしたら、「明朗なペシミズム」とでも言えましようか。モンテーニュやラ・ロシュコーほど有名ではありませんが、私にとって彼のこの著は座右の銘とすべき格言に満ちた一冊です。

「新規な事柄を言い出すことはたやすく、既に言われた事柄を調整することはむづかしい。」「学問の発達した諸世紀がしからざる諸世紀にまさるのは、せいぜいそれらの世紀の誤謬の方が幾分役に立っているからにすぎない。」

もっとも、耳の痛い格言もあります。

「消化不良でしかも意地のきたない人、これこそ大部分の学者たちの、精神の性格を恐らく最も如実に示せる姿であろう。」「世に良き教訓 (おしえ) は沢山あるが、良き師は殆どない。」

2) 退屈読本 (富山房百科文庫)

佐藤春夫著 富山房 1978

日本語が素晴らしい。それから、勝手気儘の限りを尽くした構成も (?)

\* 3) 吉田秀和全集

吉田秀和著

白水社

請求記号: 760.8/Y1/

吉田は音楽のもたらす幸福感を描き出す点において全く比類のない評論家。彼の文章も佐藤のそれに劣らず、見事です。

**光信 一宏 教官 (ガバメント)**

\* 1) 人権 (一語の辞典)

樋口陽一著 三省堂 1996

請求記号: 316.1/H1

本書は、憲法学界の第一人者で問題提起の鋭さに定評がある樋口教授のエッセンスを要約したものであり、文章は比較的平易だが内容きわめて高度である。学説の現在の到達点を知りたい人、および人権問題に関心を持つ

人に一読をお薦めする。

2) 時代を読む : 「民族」「人権」再考

加藤周一、樋口陽一著

小学館 1997

3) 抵抗への招待 鶴飼哲 著

みすず書房 1997

**岡本 直之 教官 (マネジメント)**

\* 1) 日本型システムの深層

－迷走する改革論－

宮本光晴著 東洋経済新報社 1997

請求記号: 332.107/MI

経済学者の名前は出てくるものの、経済学の知識を特に要さない本です。内容を批判的に見るか、肯定的に見るかは、読み進みながら自分自身で考えましょう。色々と考えさせられる本です。

**笹沼 朋子 教官 (応用法政策)**

\* 1) 性の法律学

角田由紀子著 有斐閣 1992

請求記号: 367.2/TU

日本にフェミニズム法学というものが存在し得るとしたら、こうしたものになるだろうという見本を最初に提示したのが本書である。具体的な裁判例を参照しながら、現存する法体系を根底から批判する本書は、フェミニストではなくても、いかに法を疑いつつ利用することが重要か深く反省を促すものである。

\* 2) 闇の中の女性の身体: 性的自己決定権を考える

若尾典子著 学陽書房 1997

請求記号: 368.4/WA

3) ポルノグラフィ: 「平等権」と「表現の自由」の間で

C・A・マッキノン著 柿木和代訳

明石書店 1995

\* 4) 性の植民地: 女の性は奪われている

キャスリン・バリ著 田中和子訳

時事通信社 1984

請求記号: 368.4/BA

\* 5) 試験管の中の女



リタ・アルディッティ他編  
ヤンソン由実子訳  
共同通信社 1986  
請求記号：495.5/SI

- \* 6) 山川菊栄評論集 (岩波文庫)  
山川菊栄著 鈴木裕子編  
岩波書店 1990

**坂根 照文 教官 (人間科学)**

- 1) どくとるマンボウ青春記 (中公文庫)  
北杜夫著 中央公論社 1990

団塊の世代である小生は、旧制高等学校の弊衣破帽を知らない。弊衣破帽が当時の高校生の鼻持ちならぬエリート意識の表われであり、時代錯誤そのものであるのも充分承知している。しかし、今の大学1, 2回生と同年代の彼等が何を考えていたか、それを知るのには無駄ではない。

岩波書店にPR誌「図書」がある。1998年5月号に「北杜夫のいた松本」という随想が掲載されている。これも併せて読みたい。

**呉羽 正昭 教官 (人間科学)**

- 1) ハブスブルク帝国を旅する  
(講談社現代新書)

加賀美雅弘著 講談社 1997

現在、ハブスブルク帝国が注目されている。本書は、帝国の領土の大部分を占めた中央ヨーロッパについて知りたいと思う時に、最初から読むべき一冊であろう。内容は、帝国内の地域的特徴を景観という視点から明らかにしようとするものである。豊富な写真が読者の理解を深めてくれる。ハブスブルク帝国時代に書かれた旅行案内書の文章も多く引用されているだけでなく、歴史的要素や民族・宗教などの文化的要素についての説明も多い。本書には、高校までの教科「地理」とは異なる学問としての「地理学」のおもしろさが凝縮されており、地理学入門書としても適している。またハンガリー、チェコ、オーストリアへの旅行を計画している学生諸君には、事前の一読、さらに現地への携帯をおすすめしたい。

- 2) 中欧：ポーランド・チェコ・スロヴァキア・ハンガリー

(読んで旅する世界の歴史と文化)

沼野充義監修

新潮社 1996

- 3) ドナウの旅人 上・下 (新潮文庫)

宮本輝著 新潮社 1988

**菅谷 成子 教官 (日本アジア文化)**

- 1) 朝貢システムと近代アジア

浜下武志著 岩波書店 1997

本書は、国家を中心とした世界の在り方、あるいは、国家そのものの意味が問われている現代において、日本、アジアを問わず、世界の歴史に興味ある人、現代の国際秩序・地域秩序の在り方、国際関係論等に興味ある人にも等しく興味深いものです。それは、従来、ヨーロッパの衝撃によって、アジアの「近代化」がなされたとする見方にたいして、すなわち、それは、それまで、蓄積されてきたアジアの地域秩序の断絶を前提するものでしたが、新たにアジアにおける地域秩序の連続性という観点から、アジアの「近代」を捉えるという視点をわれわれに与えてくれるからです。それを通じて、ヨーロッパから見たアジアという視点に陥りがちな日本人自身の歩んできた過程をも客観的に見直す契機が提供されます。

- 2) 異文化受容のパラドックス (朝日選書)

小坂井敏晶著 朝日新聞社 1996

- 3) 民族で読む中国 (朝日選書)

可児弘明 [ほか] 編著

朝日新聞社 1998

- \* 4) 東南アジアを知る：私の方法

(岩波新書)

鶴見良行著 岩波書店 1995

- 5) 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行 増補

ベネディクト・アンダーソン著

白石さや、白石隆訳

NTT出版 1997

- 6) 逆光のオリエンタリズム

青木保著 岩波書店 1998

**吉田 正広 教官 (欧米文化)**

**\* 1) マックス・ヴェーバー入門**  
(岩波新書)

山之内靖著 岩波書店 1997  
請求記号: 080/IW/R503

これまでマックス・ヴェーバーと言えば、西欧近代社会を肯定的に捉える近代主義者として一般に理解されてきたが、実はヴェーバーは、近代社会の持つ様々な問題性を、キリスト教、特にプロテスタンティズムの持つ根本的な問題性にまでさかのぼって暴露したというのが本書の基本的な主張である。「ヴェーバーのニーチェ的理解」を提示する本書は読みごたえがあり、また、ヴェーバーの歴史観の変遷を追った部分も興味ある。特に、ヴェーバーによる古代エジプト社会の研究が、現代社会における支配や管理の問題を批判的立場から考察することであったという著者の主張は、学問とは何かを考える上で参考になる。

**2) フランス革命：歴史における劇薬**  
(岩波ジュニア新書)  
遅塚忠躬著 岩波書店 1997

**井上 彰 教官 (欧米文化)**

**1) あなたに似た人**  
(ハヤカワ・ミステリ文庫)  
ロアルド・ダール著 田村隆一訳  
早川書房 1976

机に向かって本腰を入れて読むというよりは、ふと何かを読みたいと思った時にお薦めの本が、ダールの短編集『あなたに似た人』です。あなたに似た人があなたの身近な日常のとある1場面に遭遇するところから話が始まり、やがてその背後に潜む不気味さや恐怖が徐々に出てきて、そして最後の最後で……。最初の1話を読み終えた頃には、ダールの世界から抜け出せなくなることを請け合いです。ちなみにダールの英語は標準的で読みやすいので、ぜひ原書で読むことをお薦めします。ここで紹介した『あなたに似た人』の原書Some like Youの他にも、Kiss KissやTable of the Unexpected等があり、どれも

ペンギンブックスから出ており、松山でも簡単に手に入ります。

**寺尾 勝行 教官 (欧米文化)**

**\* 1) 定本柳田国男集**  
柳田国男著 筑摩書房 1968-1971  
請求記号: 380.8/Y1

大学という精神的、時間的に余裕のある時期にこそ、情報を得るために読み捨てる本ではなく、何度でも読み返しさまざまなことを学び取ることができる古典と取り組んでみるとよい。そのためにも「専門外」ではあるが、スケールの大きい著作に数多く触れることを薦める。柳田の著作はどれも、ごくふつうの日本人がどれだけ深い知恵を持ちえたか、またどれほど自然を愛し、生きることを大事なことで考えていたか——いわば日本人の可能性をよく教えてくれる。私達が(ひょっとすると永遠に?)忘れてしまったものを思い出すために、一読を勧めたい。学問的にも体系確立の情熱が熱いほど感じられ、今現在でも刺激的なアイデアに満ちている。

**森 孝明 教官 (欧米文化)**

**\* 1) ぼくはこんな本を読んできた：**  
立花式読書論、読書術、書齋論  
立花隆著 文藝春秋 1995  
請求記号: 019/TA (医・開架)

「立花式読書論、読書術、書齋論」と副題のついたこの本は、文字通り立花隆という知的好奇心のかたまりのような評論家の読書歴と読書の方法を述べたものである。彼の取材や著作活動の分野の広さとそのための読書量のすごさは驚嘆するばかりで、この本はとて読書の参考になりそうにない。にもかかわらずというかあるいはだからというべきか、痛快といえるほど面白い。それは読者の知的好奇心を大いに刺激してくれるからである。

**2) 青春漂流 (講談社文庫)**  
立花隆著 講談社 1988  
**\* 3) 「知」のソフトウェア**  
(講談社現代新書)  
立花隆著 講談社 1984

請求記号：002.7/TA

鯖田豊之著 中央公論社 1966

\* 3) 無罪 (新潮文庫)

大岡昇平著 新潮社 1982

4) 仮釈放 (新潮文庫)

吉村 昭著 新潮社 1991

5) 法医学教室の午後 正・続

(朝日文庫)

西丸与一著 朝日新聞社 1985-1987

### 教育学部

加藤 國安 教官 (国語教育)

\* 1) 吉川幸次郎全集 増補

筑摩書房 1973-1976

請求記号：920.8/Y1

中国文学者の吉川幸次郎博士(1904-82)は、20世紀後半を代表する日本の碩学の一人です。'50年前後に、『漢の武帝』『杜甫私記』『杜甫ノート』を刊行、その清新な報告は人々を魅了しました。また'52・'54年には、三好達治らと『新唐詩選』正続を刊行、これは現在でも最も広く読まれている唐詩の鑑賞集です。'62年刊の『宋詩概説』も、日本の宋詩の概説書としては、最も優れた書となっています。このほか、日本の思想史の成果として『本居宣長』『荻生徂徠』などの本があります。博士の論著は、近代的な人文学の方法によること、また単なる文学論ではなく、中国文化史の大きな体系を踏まえての解釈であること等に特色があり、日本人の中国文化に対する認識を一新させたのです。

\* 2) 莊子：古代中国の実存主義 (中公新書)

福永光司著

中央公論社 1964

請求記号：080/T1/36

3) 人生をいかに生きるか (講談社学術文庫)

林語堂著 阪本勝訳

講談社 1979

4) 漢詩の旅 (徳間文庫)

秦 泥著

「人民中国」雑誌社日本語部訳

徳間書店 1989

三浦 和尚 教官 (国語教育)

\* 1) 「わかる」ということの意味 新版

佐伯胖著 岩波書店 1995

請求記号：370.4/SA

学びの中で「わかる」ということはどういうことなのか。学校教育において「わかる」はどのようにとらえられているのか。またそれは正当なのか。「日常生活でのかしこさ (生活知)」と「学校の授業でのかしこさ (学校知)」は、同じものになっていないのではないか。学校での学びのあり方にかかわるそのような疑問が、本書の易しい説明によって解けていく。その読後感は快感とも言うべきものである。

\* 2) 教えるということ

大村はま著 共文社 1973

請求記号：370.4/O6/=4

3) これが私の優しさです：

谷川俊太郎詩集 (集英社文庫)

谷川俊太郎著 集英社 1993

4) 小説の力：新しい作品論のために

田中実著 大修館書店 1996

高橋 治郎 教官 (理科教育)

1) 現代読書法 (講談社学術文庫)

田中菊雄著 講談社 1987

本を読まない大学生がいるなんて信じられません。読書の楽しみを知らずに卒業していったのは気の毒なので (最も、本を読まない者はこの文章も読まないでしょうが…)、取って置きの一冊を紹介する次第です。この田中先生の「現代読書法」は、読書方法のみならず情報の収集や整理方法まで教えてくれるすばらしい本です。読んで実践すれば、知的生活ができますし、活字中毒になります。字数に制限があるので、田中先生自身の言葉でこの本の紹介を終わりたいと思います。「良書だ！ただ一冊の良書が私どもの一生にいかにか大きな感化を与えることであろうか？ 一の良書はさらに他の良書を、そして他の良書はさらにまた他の良書を教えて私たちをして倦(う)むことを忘れしめるのである。」

**石井 浩一 教官 (保健体育)**

- 1) 原始人健康学：家畜化した日本人への  
提言 (新潮選書)

藤田紘一郎著 新潮社 1997

久しぶりに共感できる一冊に出会いました。私は昨年夏初めてインドネシアのバリ島を訪れました。帰国後この本に出会い、その日のうちに一気に読み終えました。それほど共感を覚えた一冊だったのです。著者は、寄生虫学・熱帯医学のプロパーで研究のためインドネシアを訪れます。そこで見たこと体験したことは人々のたくましさ、自然と共生する「からだ」です。本書は現代日本人への警告ともとれます。文明国家に生きる我々は真剣に自身の身体を見つめ直し、行動体力以前に防衛体力を高める努力をしなければ生きる力を失ってしまうかも知れません。そんなことをふと思いました。とにかく、著者のエピソードもふんだんに盛り込まれた本書は一推しです。

- 2) 日本人はなぜ無宗教なのか  
(ちくま新書)

阿満利磨著

筑摩書房 1996

- 3) スポーツ学のみかた

(AERA MOOK ; No.20. 「New学問のみかた。」シリーズ 3)  
朝日新聞社 1997

**曲田 清維 教官 (家政教育)**

- \* 1) 居住福祉 (岩波新書)

早川和男著 岩波書店 1997

請求記号：080/IW/R527

著者は、「人間にふさわしい居住が、命の安全や健康や福祉や教育や本当の豊かさや人間としての尊厳を守る基礎であり、安心して生きる社会の基盤である」とし、貧困な居住条件が人々の心身を破壊すると同時に、その社会的損失もまた大きいことを指摘している。このことは、阪神大震災によって私たちの前に明らかにされたが、著者（彼もまた被災者である）はさらに進めて、居住と福祉の密接な関係を解きほぐし、特に高齢社会へと

進む我が国の居住政策のあり方を深く問うている。「住居は人権であり、福祉の基礎である。」ことを願いつつ。

- 2) 老人・家族・住まい：やわらかな住宅  
計画

在塚礼子著 住まいの図書館出版局 1992

- 3) 創造的住まいづくり・まちづくり

：集まって住む楽しさを知っていますか  
(岩波ブックレット)

延藤安弘 [著] 岩波書店 1994

- 4) 住宅白書 1998

日本住宅会議 ドメス出版

- 5) ちいさいうち (岩波の子どもの本)

バージニア・リー・バートン文・絵  
石井桃子訳

岩波書店 1981

- 6) 裁かれるのは誰か

原田正純著 世織書房 1995

**田辺 勝利 教官 (家政教育)**

- \* 1) 教養としての世界史

西村貞二著 講談社 1966

請求記号：209/N1 (書庫)

21世紀を間近に迎えて、最新世界史の出版が目白押しという状況がみられる。そのような中に本書は1966年に発行されたものであるという点で少し内容が古いという印象を与えるかもしれない。しかし1988年において第57刷という事実からみても一読に値すると思う。その特徴としては、一日の読書で世界史の全貌を見渡せること、記述がやさしく感覚的によみとれること、さらにこれを読むとより詳しい世界史を知りたくなる気分を喚起させることであろう。すでに高校では世界史が必修科目になっており、現在の一回生は全員が修得しているが、教科書や受験から解放されて復習するため、二回生以上の学生で習得していないが、世界史に触れてみたいと思う人には手ごろであろう。

- \* 2) 世界の歴史

樺山紘一編他 中央公論社 1996

請求記号：209/SE

**井門 義男 教官 (英語教育)**

1) 英語を学ぶなら、こんなふうに:

考え方と対話の技法

(NHKブックス)

加藤恭子著 日本放送出版協会 1997

本書は著者の長い言語教育者としての取り組みの中で、自らの貴重な体験に基づき生み出された、英語学習者のための方策を編んだものである。特に注目すべきは、著者自身の実践例が分かりやすく述べられている点である。例えば“聞き取りでは、一度スイッチを押したら、物語が終わるまでそのままにすること”(P44)などは実に示唆に富むものである。英語になじめない学習者にとって、格好の道標となるであろう。

2) この国のかたち

司馬遼太郎著 文藝春秋 1990

\* 3) こころと形

谷川徹三著 岩波書店 1975

請求記号: 704/T4 (書庫)

**池野 修 教官 (英語教育)**

1) 立花隆のすべて

文藝春秋編 文藝春秋 1998

立花隆氏は、「脳死」「サル学」「宇宙」「臨死体験」など極めて多彩な分野にわたり仕事をしているジャーナリストであり、本書は氏の学びに対する考え方や実際の仕事ぶりなどを紹介したものです。巻頭メッセージにある「私は勉強が好きで、生活時間のほとんどを勉強にさいてきた」という氏の言葉に対して、「自分とは別世界の人。ついていけない」という反応を示す学生の皆さんもいるかも知れません。しかし、本に載せられている氏の仕事場や膨大な蔵書の写真を眺めるだけでも大きな刺激になることをお約束します。人に教えられることをただ消化するというスタイルに染まってしまっている人も、本書に刺激を受け、「自分も知的好奇心をもって様々なことを学んでみよう」という気持ちに少しでもなれるかも知れません。立花氏に関するホームページも存在するので、興味のある人はアクセスしてみましょう。

(<http://www.komaba.ecc.u-tokyo.ac.jp/~ctakasi/>)

**建川 博之 教官 (障害児教育)**

1) ハンディキャップ・オリエンテーリング

(シリーズ市民の活動)

安藤忠編著 原田昭知, 森脇賢司著

松籟社 1987

本書はデンマークのボーイスカウト活動の一環として実施された、「キャップハンディ」活動の実践例を中心にまとめられている書です。キャップハンディとはハンディキャップの語の前半と後半を入れ換えた、一種のアナグラムです。日常の生活に障害を持つ者が負わされた不利な条件を、逆に健常者にも負わせることで、「障害を持たない者に、障害を持っている人の立場に立って考え、行動をする姿勢を持たす」意味が込められています。別名ハンディキャップ・オリエンテーリングとも呼ばれていますが、多くの学生諸君に読んで頂き、障害者の立場を考えて貰いたいと思います。

\* 2) 生きること・かわること:

人間への臨床心理学的接近

池田豊応〔ほか〕編 村上英治監修

名古屋大学出版会 1984

請求記号: 146/I2/=2 (書庫)

\* 3) この子らを世の光に:

近江学園二十年の願い

糸賀一雄著 柏樹社 1965

請求記号: 378.04/I1/4 (書庫)

\* 4) 重度心身障害児: その生の意味と発達

村上英治著 川島書店 1976

請求記号: 378.6/M22/=5

**原 弘巳 教官 (学校教育)**

\* 1) 立原道造詩集 (岩波文庫)

立原道造著 杉浦明平編

岩波書店 1988

請求記号: 080.4/I1/267

学生生活において友人関係等々に悩んでいる人々にとっては、いままで知らなかった世界を開いてくれる書。透明な青い沖縄の海のような言葉の一つ一つが我々を孤独で寂しい



世界へつれていくが、しかしそこに我々は本当の友だちを見つけないのではないだろうか。見つからなければ見つかるまで読んでみるのもおもしろい。

### 山本 久雄 教官 (学校教育)

#### \* 1) 自由からの逃走 新版

エーリッヒ・フロム著 日高六郎訳

東京創元社 1965

請求記号: 308/G3/9

読書の楽しみの一つは、それを読むことによって日常の雑多な経験や感情などに一筋の連関が生じるところにあらう。本書は、ナチズムに即して、近代人が歴史的に獲得してきた自由の一面には個人の孤立と無力化があること、そこから、個人は自由であることから逃避し、新たな依存や従属を求めようとする、そこに権威主義、破壊性、機械的画一性などの心性が現れることなどを明らかにしている。そして、孤独の不安に耐える勇気を持ち、愛と創造的な仕事に生きよ、というメッセージを送る。」学生時代、この本に触れ、自身の中や周りの「モヤモヤしたもの」が、相変わらず統御しがたいままであれ、一筋の光に照らされたような感じがしたことは、今でも強烈な印象として残る。

## 理 学 部

### 山本 哲朗 教官 (数理科学科)

#### \* 1) 食うものと食われるものの数学

山口昌哉著 筑摩書房 1985

請求記号: 410.4/Y11/=2

本書は、一般の人々を対象として、「数学とは何か」について著者（京都大学名誉教授・応用数学者）の考えを平易に述べたものである。内容は、第1部「数学という考え方」および第2部「食うものと食われるものの数学」とから成るが、かた苦しい記述はない。例えば第1部において托鉢僧であったアララギ派の歌人西谷得法の詩「せどの柿の木に柿が十五なっていたげな。そこへ雀が八羽掠鳥が五羽飛んできたげな。それでみんなで二十

八になったげな。どうじゃな仏法とはおよそこんなもんじゃな」を引用し、「仏法」を「数学」でおきかえればまことによく数学の本質をいい表していると主張する。また第2部において、生物間の相互作用に関するヴォルテラの理論を解説し、その応用として、農薬の散布により一時的に害虫は減るが、同時に益虫の平均値は減り結果として害虫の平均値が増加することを簡単な微分方程式を用いて導く。読者はここに至って、数学が実際に世の中の「役に立つ」肩のこらない読物として、文系理系を問わずすべての学生諸君に推薦する。

#### 2) 日本国の研究

猪瀬直樹著 文芸春秋 1997

### 坂口 茂 教官 (数理科学科)

#### 1) 若き数学者のアメリカ (新潮文庫)

藤原正彦著 新潮社 1981

この本には、ある数学者の1972年から75年にかけての米国留学体験が生き生きと描かれています。20年以上も前の話ですが、米国の自由で乾いた雰囲気は今も変わらないのではないのでしょうか。私も助手時代に1990年から91年にかけてですが、初めての海外生活でミネソタ大学に10か月間滞在したことがあり、この本にはその経験と重なる場所が多々あります。当時ミネソタ大学では、私が文献を通じてのみ知っていた多くの研究者たちの講演を常時聴くことができましたが、私はほとんど圧倒されてばかりで、しかも自分自身の研究にも行き詰まっていました。苦い経験の方が多かったのですが、この留学から得たものは計り知れません。この本は読み物として面白いばかりでなく、留学等を志している人々たちには、その精神的な面で何かの役にたつのではないのでしょうか。

### 松岡 千博 教官 (物質理学科)

#### \* 1) 液晶 (化学one point)

岩柳茂夫著 共立出版 1984

請求記号: 428.3/IW

初めから応用を主眼として書かれる液晶の本が多い中で、珍しく基礎的なところから解説している本である。化学One Point というシリーズの中に入っているのもまぎらわしいが、著者は理学部物理学科出身の物理屋で、内容も熱力学、統計物理学の手法を用いた物理学の本となっている。液晶はその名の通り液体（流体）と結晶の両方の性質を示す物質で、人工的に合成する以外にも、生体組織中など自然界に幅広く存在している。コンパクトな本であるが、本書を読み終えると液晶の基礎的知識はすべて得られるようになっている。

**長岡 伸一 教官（物質理学科）**

1) 大志の系譜：一高と札幌農学校

馬場宏明著 北泉社 1998

同時代に存在した一高と札幌農学校が深い交流をしていることを膨大な資料に基づいて綿密な論証がされている。内村鑑三や新渡戸稲造の大志と新しい学校教育を開拓していこうとする努力には深い感銘を覚える。

**小西 健介 教官（物質理学科）**

\* 1) トンデモ本の世界：MONDO TONDEMO

と学会編 洋泉社 1995

請求記号：019/TO

いわゆる“トンデモ本”を紹介しその変な部分を指摘し解説している本です。あとがきにはこう記されています。「科学的間違いを笑うためには、科学知識が必要だ。...(中略)...トンデモ本を読んで笑えるかどうか --- それがああなたの知識と常識の深さを計るバロメーターなのだ。」トンデモ本を読んで反面教師にするもよし、笑い飛ばすもいいでしょう。ただし、著者らはこういった“トンデモ本”を排斥している訳ではないことに注意して欲しいと思います。P.S. 今年の図書館だよりのこのコーナーで紹介されていた本の中に、“トンデモ本”の著者としてとりあげられていた人の本があったのには驚きました。

\* 2) トンデモ本の逆襲

と学会編 洋泉社 1996

請求記号：019/TO

3) トンデモ超常現象99の真相

と学会著 洋泉社 1997

4) と学会白書 1

と学会著 イーハトーヴ出版 1997

5) トンデモ世紀末の大暴露

と学会著 イーハトーヴ出版 1998

**小原 敬士 教官（物質理学科）**

\* 1) さまよえる大陸と海の系譜：

これからの地球観

T.H.V.アンデル著 卯田強訳

築地書館 1987

請求記号：456/A2

地球の歴史に関する地球科学の教科書であるが読み物として十分楽しめる。地球のプレート・海洋・気象のダイナミクスと生命の相互のつながりについて、論理的にわかりやすく記述するという困難な課題を見事にクリアーしている。地球がどのような変化を体験し現在に至ったのかを正しく知り、生命と地球の関わりについて考え直してみよう。過去の地球で起こった環境の変化と現在の環境問題を比較してみるのもおもしろいだろう。

**北村 揚一 教官（物質理学科）**

\* 1) 楽しい鉱物図鑑

堀秀道著 草思社 1993

請求記号：459/HO

2) 楽しい鉱物図鑑 2

堀秀道著 草思社 1997

楽しい。美しい。価格も手頃。鉱物の実例を見ることが出来る。解説が詳しく繙く度に新しい知識が得られる。本棚に置いて嵩張らない、飾りになる。

**井上 雅裕 教官（生物地球圏科学）**

1) 花を咲かせるものは何か：

花成ホルモンを求めて（中公新書）

瀧本敦著 中央公論社 1998

思った植物に自由に花や実をつけさせるのは植物生理学だけでなく人類の夢のひとつである。本書はその夢を科学者の立場から約40

年間も追いつづけてきた著者が描いた、研究史であり自叙伝でありかつ啓蒙書でもある。これまで解明された事実、研究の流れがわかりやすくまとめてあるだけでなく、研究というものの魅力、人がいかに発想力豊かにかつ辛抱強いかといったことについての内容も隠し味的に随所にちりばめられており、著者の文章力の豊かさも手伝って、とっても元気の出る本でした。ただ、夢は夢のままでいいか、さめるものなのか、実現すべきものなのか、読後感は読者の個性によって全く違ったものになるかもしれません。これもたのしみのひとつです。夏休みにゆかたを着てこの本を片手にアサガオの花をながめてみてはいかがでしょうか。

\* 2) モヤシはどこまで育つのか：

新植物学入門 (中公新書)  
増田芳雄著  
中央公論社 1990  
請求記号：471/MA (松高文庫)

川寄 智佑 教官 (生物地球圏科学)

30年前を振り返って、青春真っ盛りの学生諸君に読ませたい本。青春！。

1) チボー家の人々

ロジェ・マルタン・デュ・ガール著  
山内義雄訳  
白水社 1954

2) ミニヨンの歌：父母の肖像

[内山美根ほか著] 内山南雄 1996

\* 3) ジャン・クリストフ 改版 (岩波文庫)

ロマン・ローラン作 豊島与志雄訳  
岩波書店 1986  
請求記号：080.5/I1/40

4) 山椒魚戦争 (岩波文庫)

カレル・チャペック作 栗栖継訳  
岩波書店 1978

5) 動物農場 (角川文庫)

ジョージ・オーウェル著 高島文夫訳  
角川書店 1991

6) 1984年 (Hayakawa Novels)

ジョージ・オーウェル著 新庄哲夫訳  
早川書房 1975

\* 7) 兵士シュヴェイクの冒険 (岩波文庫)

ハシェク著 栗栖継訳  
岩波書店 1972-1974  
請求記号：080.5/I1/90 (1-4)

\* 8) 史記列伝 (岩波文庫)

司馬遷〔著〕 小川環樹, 今鷹真,  
福島吉彦訳  
岩波書店 1975  
請求記号：080.2/I1/108

金本 自由生 教官 (附属臨海実験所)

\* 1) 海辺の扉 (宮本輝全集)

宮本輝著 新潮社 1992  
請求記号：918.68/MI/11

私は海洋生物学を専攻している関係で、どうしても題名に海と名の付く本は反射的に手にとってしまう。「海辺の扉」もそんな一冊であったが、「諏訪湖の湖面は波立たず…」というすべり出しに、ドライブの途中に諏訪湖のほとりでひと休みしたことを思い出し、即座に購入した。後は読んで戴ければ分かる通り、一気にギリシャに連れて行かれ、地中海をクルーズし、著者の並外れた想像力による情景描写と心理描写に引き込まれてしまった。これから社会人になろうという人には、読んでおいてじゃまにはならない一冊である。ほかに、ちょっと古いが夏の海辺でひもとく文庫本を数冊下記に記しておいた。

(教官紹介図書は角川文庫版です。)

2) 海辺の生物 (カラー自然ガイド)

西村三郎／山本虎夫共著  
保育社 1974

3) 海からの贈物 (新潮文庫)

リンドバーク夫人〔著〕 吉田健一訳  
新潮社 1993

4) 海への動物 (カラーブックス)

鈴木克美著 保育社 1969

5) 海の下の大陸：地球を語る沈黙の世界 (ブルーバックス)

F.P.シェパード著 氏家宏訳  
講談社 1968

6) 深海探検記：珍奇な魚と生物 (現代教養文庫)

ウィリアム・ビービ著 日下実男訳  
社会思想社 1970

**医学部**

**岩井 将 教官 (医化学第一)**

- \* 1) 脳からみた心 (NHKブックス)  
山鳥重著 日本放送出版協会 1985  
請求記号: 493.7/Y2 (書庫)

自身の専門分野からみれば、下記の「Molecular Biology of the Cell」を推薦したいが、これは他の多くの人も推すと思うので、他の人はあまり紹介しない本を挙げた。近年脳のさまざまな機能が解明され、それら多くは私達が「こころ」あるいは精神と呼んでいるものの働きと結びつけようとする研究者が多い。しかしそれらの研究の取り組みかたには根本的に誤りがあると思われる。その根本的な立場について正直に考察しているのが、この著者であると思う。

- \* 2) Molecular biology of the cell 3rd ed  
Bruce Alberts ... [et al.]  
New York: Garland Publishing, c1994  
請求記号: 463/MO (本館・医分館)

**坪井 敬文 教官 (寄生虫学)**

- 1) 危険な病気対策マニュアル:  
海外旅行必携  
祢津加奈子著 工作舎 1997

毎年日本人の人口の1割以上もの人が海外旅行に出かけています。しかし、病気になってしまっただけでは楽しいはずの旅も台無しです。海外旅行中に病気、特に感染症にかかる大きな原因は、現地の事情を良く知らずに日本での生活習慣をそのまま持ち込んでしまうことです。そこでそうならないための必読書をご紹介します。この本は、まず、感染経路別に病気をまとめ、どんな病気か? どうすれば予防と治療ができるかについて読みやすく書いてあります。それだけでなく、実際に病気にかかった人の体験談なども書かれており、楽しく読めるようになっています。海外旅行に出発する前の情報の収集に一読されることを

おすすめします。

**河野 保子 教官 (基礎看護学)**

- 1) 大河の一滴  
五木寛之著 幻冬舎 1998

人はみな老い、病を得て、孤独のうちに死を迎える。人生をいかに生きるか。マイナス思考を通過して初めて生まれるプラス思考を論じる人間論が本書である。

**佐藤 福美 教官 (臨床看護学)**

- \* 1) 看護理論とは何か  
ペギー L. チン,  
メオナ K. クレイマー著  
白石聡監訳 坂本恵子 [ほか] 訳  
医学書院 1997  
請求記号: 492.9/CH (医・開架)

本書は、看護理論について興味を持つ人の入門書として活用できると思います。学生時代は教科書として、また、教育者や臨床実践者となれば自らの看護の知(認識)のパターン、経験側の表現としての理論、看護学のキー概念、実践での理論・哲学・倫理、記述と批判的考察、研究と実践とのつながり、などについての概念が可能となるとと思います。翻訳は、できる限り原文に忠実に訳すことに留意し、愛媛大学医学部看護学科と附属病院看護部のスタッフを中心に分担していますので、是非読んでみてください。

**工学部**

**村上 幸一 教官 (機械工学科)**

- \* 1) 義経 (司馬遼太郎全集)  
司馬遼太郎著 文藝春秋 1971  
請求記号: 918.68/S10/21  
\* 2) 燃えよ剣 (司馬遼太郎全集)  
司馬遼太郎著 文藝春秋 1971  
請求記号: 918.68/S10/6

私が学生時代にはまってしまった司馬遼太郎の小説には多くの長編があるが、比較的短いものをあげておきます。主人公の義経ではなく鎌倉幕府を作った仇役の頼朝、幕末のあ

だ花新撰組を作った土方歳三が非常に魅力的で、私の物の見方に大きく影響しました。なお、はまってしまうと、非常に長い小説が多く途中で読むのをやめられないので、期末試験時には大変困った事態となります。要注意!!ただし、本箱には漫画を含め私の好きな作家の本を並べてありますが、私の子供達は全く読もうとしないことを、付け加えておきます。

#### 磯村 滋宏 教官 (電気電子工学科)

##### \* 1) 幸福論 (岩波文庫)

三谷隆正著 岩波書店 1992

これは既に、教養書として古典となっているものだ。つまり、いつになっても古くならない、新しい本である。無教科キリスト者である著者(1889-1944)は、法哲学の権威として知られ、旧制静岡高校の校長を勤めた教育者である。歴史と哲学とそして、自身の信仰を基にして、「幸福」を大きく、深くとらえ、それを分かりやすく説いている。全集刊行についての座談会(元東大総長南原繁、東大名誉教授丸山真男:いずれも当時、他)が付録についているが、これも著者を理解するには非常によいものだ。

##### \* 2) COSMOS (上)(下)

カール・セーガン著 木村繁訳

朝日新聞社 1980

請求記号: 440/S4/1-2

##### 3) 瀬戸大橋をかけた男

河口栄二著 三省堂 1988

#### 田崎 三郎 教官 (電気電子工学科)

##### \* 1) 街道をゆく (司馬遼太郎全集)

司馬遼太郎著 文芸春秋 1984

請求記号: 918.68/S10/

このシリーズは、国内外の各地の歴史と文化を自らの眼と足で確かめた、司馬史観の集大成ともいえる大作である。各巻はそれぞれ独立した内容を持ち、国内は「甲州街道」に始まり全国津々浦々を、国外は「モンゴル」に始まり世界のあちこちにその足跡は広がっている。これらはいずれも、学校の歴史では

決して学べない貴重な歴史、文化の真実を私達に教えてくれる素晴らしい本である。愛媛に関係する下記の書と共に、皆さんに是非在学中に読んで欲しいものである。

(教官紹介の図書は、朝日文芸文庫版です)

##### \* 2) 空海の風景 (司馬遼太郎全集)

司馬遼太郎著 文芸春秋 1984

請求記号: 918.68/S10/

##### \* 3) 坂の上の雲 (司馬遼太郎全集)

司馬遼太郎著 文芸春秋 1984

請求記号: 918.68/S10/

##### \* 4) 胡蝶の夢 (司馬遼太郎全集)

司馬遼太郎著 文芸春秋 1984

請求記号: 918.68/S10/

##### \* 5) 花神 (司馬遼太郎全集)

司馬遼太郎著 文芸春秋 1984

請求記号: 918.68/S10/

##### \* 6) アメリカ素描

司馬遼太郎著 読売新聞社 1986

請求記号: 915.6/S6 (書庫)

#### 津田 光一 教官 (電気電子工学科)

##### \* 1) 数学的センス

野崎昭弘著 日本評論社 1987

請求記号: 410.4/NO

数学が苦手な諸君にも「数学とはどんな学問なのか? どこが面白いのか?」といったことについて、中学生程度の数学の知識だけで理解出来るように説明、解説されている本です。各章の扉に引用されている文章や本文の書きぶりにユーモアを基調にした著者の熟達の技が溢れている名著です。一例を上げれば、 $x$ を見ただけで気持ちが悪くなるという数学アレルギーの諸君にも第一章の「命名のセンス」はすんなり読めて「なるほど!なんで $x$ なんて使わなければいけないのか初めて分かった!」と言ってもらえるはずです。また、「数学の美しさとは?」といったことが分かりやすく解かれていて、数学なんて無味乾燥の学問と思っていた諸君には目からウロコが落ちること請け合いです。読んでみてください。

##### 2) アインシュタイン伝 (新潮文庫)



矢野健太郎著 新潮社 1997

\* 3) 怠け数学者の記

小平邦彦著 岩波書店 1986

請求記号: 410.4/KO

4) 父の威厳 数学者の意地 (新潮文庫)

藤原正彦著 新潮社 1997

5) 数学の影絵 (河出文庫)

吉田洋一 河出書房新社 1982

\* 6) 広中平祐の数学教室:

誰でも数学が好きになれる

広中平祐著 サンケイ出版 1985

請求記号: 410/H8

室 達朗 教官 (環境建設工学)

1) アメリカはなぜダム開発をやめたのか  
公共事業チェック機構を実現する議員の会編

築地書館 1996

公共事業とは何か、税金の無駄づかいではないのかを問いかけ、米国の河川政策転換の背景や公共事業への市民活動組織の関わりと取り組み事例などを交えながら、近年の米国における政策形成のプロセスを紹介し、日本における行財政改革と公共事業チェック機構実現の必要性について問うている。

2) 免震: 地震への絶縁状

多田英之著 小学館 1996

3) 海洋の波と流れの科学

宇野木早苗/久保田雅久著

東海大学出版会 1996

4) 日本の水景: 持続する僕の風景

篠原修文 三沢博昭 河合隆當写真

鹿島出版会 1997

\* 5) 世界の地形

貝塚爽平編 東京大学出版会 1997

請求記号: 454/SE (農・開架)

6) 百年ダムを造った男: 土木技師八田興一の生涯

斎藤充功著 時事通信社 1997

田中 寿郎 教官 (機能材料工学科)

1) ゲージ場を見る:

電子波が拓くミクロの世界

(ブルーバックス)

外村彰著 講談社 1997

筆者の外村彰氏が自ら世界に先駆けて実用化した電子線ホログラフィーをもちいて、電磁気学で一番難解なベクトルポテンシャルを直接目で見える形で示してくれる。多数のすばらしい写真により、直感的にベクトルポテンシャルの存在を理解でき、著者の含蓄深い説明は読者をいつのまにかゲージ場の世界に引きずり込んでしまう。まさに“百聞は一見に如かず”と言うことわざを実感できるすばらしい一冊です。

2) 遥かなるスミソニアン

松本栄寿著 玉川大学出版会 1997

この本は、横河電機に勤める著者が、会社の創立を記念して計画している“はかる”博物館の準備のためにアメリカのスミソニアンに留学し、メリーランド大学の科学史の講義を受け、博物館や展示とはどうあるべきかという問題を修得していく過程を著者にまとめたものです。日米の博物館展示に関する考え方の相違、そして科学技術をどのように伝えるべきか考えさせられます。

3) 鉄, 千年のいのち

白鷹幸伯著 草思社 1997

“高純度鉄はさびない”という知識は学生時代から知識として知っていたが、実際に純度の高い鉄が飛鳥、白鳳時代の建築で用いられたとは知らなかった。技術発達した現代でも、古代建築の修理のために著者である松山の鍛冶屋が1000年もつ釘を打っている。我々の地元松山にこんな技術を持った方がおられたと言う新鮮な感動と、教科書には書いていない材料の持つ奥深さを実感させられる。材料はおもしろい。

平岡 耕一 教官 (機能材料工学科)

\* 1) 物質の量子理論

J.C.スレーター著 大森恭輔〔ほか〕訳  
共立出版 1956

請求記号: 408/K1 (書庫)

2) Quantum theory of matter 2nd ed

John C. Slater New York:

McGraw-Hill, c1968

機能材料の物性をミクロ（微視的）の観点から研究するためには、量子力学のある程度の知識は必須のものとなる。この本は少し古く、最近物質理論の量子論の良くまとまった教科書も出版されており参考になるが、夏休みにじっくりと考えながら読めば、学生諸君の知的欲求を十分に満足させてくれるものとなろう。特に多重項について書かれている章は一読に値する。

- \* 3) 物質の量子力学 (岩波基礎物理シリーズ)  
岡崎誠著 岩波書店 1995  
請求記号: 420.8/NA/6

#### 青野 宏通 教官 (機能材料工学科)

- \* 1) 無機化学  
リー著 浜口博, 菅野等訳  
東京化学同人 1982  
請求記号: 435/L3
- \* 2) 有機化学 第3版  
R.T.モリソン, R.N.ボイド著  
中西香爾, 黒野昌庸, 中平靖弘訳  
東京化学同人 1977  
請求記号: 437/M6
- \* 3) 学術用語集: 化学編 増訂版  
文部省 [編]  
南江堂 1979  
請求記号: 430.3/M3/=8 (参考)
- \* 4) 化学英語の活用辞典 縮刷学生版  
千原秀昭 [ほか] 編  
化学同人 1973  
請求記号: 430.3/K5/=2 (参考)

最近の教科書は、要点だけ簡潔にまとめたものが多く、値段が安く、読みやすいという点では優れている。しかし、実際このような本は、専門的に深く掘り下げて行くと、肝心なところが多く抜け落ちており全く役に立たないことが多い。一方、分厚い教科書は、値段が高く、要点がわかりにくい点から敬遠しがちであるが、よい本を吟味して選べば、自分にとって座右の名著となりうる。1) 2) で紹介した2冊は、小生が学位取得のための専門試験を受けるときに勉強した教科書のう

ちの2冊であり、2) の有機化学などは全く専門外であったが、説明が豊富で構えずに読める本であった。また、理系の学生は学術用語集の購入が必須であり、化学・材料系の学生は英語の論文を読むために3) の用語集、英語の論文を書くためには例外が豊富な4) の辞典の購入を推薦する。

#### 松田 晃 教官 (応用化学科)

- 1) 総合雑誌 (文芸春秋, 中央公論, 世界, 論座, 現代 等)  
\* 論座以外の雑誌は図書館で購入しております。

20世紀における科学技術の進展は著しく地球上の生物の生存にまで影響を及ぼしています。一方、人は個人として自立しえないまま個としてあろうとして精神の平衡を失い様々な事件を起こしているように思われます。これら二つの事象は相互に関連しあっていて、総合雑誌は、現在を基点として過去を振り返って未来を見通す多種多様な材料を提供してくれるでしょう。今の時代は人間と自然の問題が絡み合っており、学生時代に文系・理系の枠を越えて様々な問題について自分なりに思考できる訓練をしておくことが望まれるので、偶には総合雑誌を手にとってみることを勧めます。

#### 大上 健二 教官 (情報工学科)

- 1) やわらかな心 (講談社文芸文庫)  
吉野秀雄著 講談社 1996

若き頃、鎌倉の瑞泉寺に春の花々を観にいったとき、吉野秀雄の歌碑に目がくぎづけになった。吉野秀雄は、正岡子規の「竹乃里歌」に感応して歌を学びはじめ、會津八一の弟子となり、良寛を師とした歌人である。吉野秀雄は、子規と同様病に苦しみ、他人には悲壮とみえる生活の中、誠実な心にあふれ、明朗であって強靱に生きた人である。この本「やわらかな心」はこの歌人の随筆集である。この本の文章にはどこを探してもうそがなく、この人の生きざまに接すると心が洗われ、何が最も大切かが観えてくる。ぜひ座右

の書としてほしい本である。

2) 春風夏雨 (角川文庫)

岡潔著 角川書店 1970

\* 3) 冬のかたみに

立原正秋著 新潮社 1980

請求記号: 918.6/S1/61

4) 小説渡辺崋山 1-8

杉浦 明平著

朝日新聞社 1982

山田 宏之 教官 (情報工学科)

1) 宮本武蔵 (講談社文庫)

吉川英治著 講談社 1971

大学院生の時に読みました。一つの道を究めようとする武蔵の生き方は、何かを達成しようとするときに、大切だと思いました。長編ですが、じっくりと読んで自分の生き方を考えてみては如何でしょうか?

2) Xの悲劇 (創元推理文庫)

エラリー・クイーン著 鮎川信夫訳  
東京創元社

3) Yの悲劇 (創元推理文庫)

エラリー・クイーン著 鮎川信夫訳  
東京創元社

4) Zの悲劇 (創元推理文庫)

エラリー・クイーン著 鮎川信夫訳  
東京創元社

5) レーン最後の事件 (創元推理文庫)

エラリー・クイーン著; 鮎川信夫訳  
東京創元社

天野 要 教官 (情報工学科)

1) 音声認識の基礎

Lawrence Rabiner,

Biing-Hwang Juang共著

古井貞熙監訳

NTTアドバンステクノロジー 1995

情報工学科3回生の集中講義「音声情報工学」を担当される北澤茂良先生(静岡大学教授)の推薦です。この分野の良い本で、先生の講義でも使用されるそうです。

農学部

上田 博史 教官 (生物資源生物学)

\* 1) 二重らせん

ジェームス・D.ワトソン著

江上不二夫, 中村桂子訳

講談社 1986

請求記号: 464.27/WA

J. D. ワトソンの「二重らせん」何度もこの欄に登場したかもしれないが、相も変わらず非常識で無知な私は、これをまず推薦したい。かの有名な論文をNatureに投稿した直後に著者自身が最終章に記した感慨を付記して「・・・を通ると、髪を長くした女の子たちがうろついていたが、もう彼女たちとおさらば、という気持ちだった。今日で私も25歳、もう常識はずれのことをする年ではなくなっていた。」25歳! 帰省中の車中でこの本を読み終えた私は、休みを返上して研究室へ戻ろうかと一瞬思った。大学院の学生だった頃の話だが、結局戻らなかったことが、研究者としての私自身のスケールを決めた様な気がしてならない。

2) ジュラシック・パーク

マイクル・クライトン著 酒井昭伸訳  
早川書房 1993

DNAと言えば「ジュラシック・パーク」だが、原作も映画に劣らず面白い。しかし、著者は必須アミノ酸の概念について致命的な誤りを犯した。これがパークの崩壊につながったと思う。

\* 3) アウトブレイク: 感染

ロビン・クック著 林克己訳

早川書房 1988

請求記号: 933/CO (医・開架)

映画でもおなじみの「アウトブレイク」。エイズより怖いエボラ出血熱は実際1989年にアメリカバージニア州に上陸した。人類が滅亡しなかったのは、変異しやすいウイルスの特性によるものだった。この作品はよくできたフィクションだと思う。

4) 検屍官シリーズ (講談社英語文庫)

パトリシア・ダニエルズ・コーンウェル著

講談社インターナショナル 1997  
バージニア州には、ケイ・スカーベッタという魅力的な女性検屍官がいる。パトリシア・コーンウェルの「検屍官シリーズ」全8冊は、長旅のよき伴侶となるだろう。

**戎 信宏 教官 (生物環境物理学)**

**\* 1) 森林水文学**

塚本良則編 文永堂出版 1992  
請求記号: 656.5/SI (農・開架)

森林には様々な効用がある。そのうち重要なものの一つとして水との関わりがある。専門的にはこれを水源かん養機能と言う。やさしく言うと水を蓄える機能とも言える。このことは一般には森林(特に広葉樹)があれば水が増えると思われている。これは全くの間違いである。森林があれば水は減少(消失)する。ではなぜ森林は重要なのか? 森林は水を蓄える土を作るからである。このことが書かれているのがこの本である。この本は専門書であり、一人で読むのはむづかしい。しかし森林と水資源、さらには、地球温暖化、CO<sub>2</sub>問題など地球環境問題を解決する上での基礎学問であり、正しい知識を得るにはこの本で勉強することが非常に大切である。

**大上 博基 教官 (生物環境物理学)**

**\* 1) 人間にとって科学とはなにか  
(中公新書)**

湯川秀樹/梅棹忠夫著  
中央公論社 1967  
請求記号: 080/T1/132

これは、今から30年前に初版が刊行された書で、究極のテーマがそのまま書名である。この問題は大きすぎるので、私は、初歩ステップとしてテーマの“科学”を“科学的”に置き換え、気が向いたときに気が向いた箇所を度々読んでいく。大学では、断片的な知識の羅列ではなく、科学的な姿勢と見方を共通の方法論として、様々な知的興味の対象に挑戦してもらいたい。そして疲れたときにでもこの本をちょっと読んでみては如何? 世界を代表する二人の大科学者による“ざっくばら

ん”な対談によって、“こころよい知的緊迫感”を体験できる。

**秋山 浩一 教官 (生物資源化学)**

**1) Protein Structure**

A.C.T. North Teresa K. Attwood  
Carolina Biological Supply Co. 1991

本書は、蛋白質の構造を解説した本(英語)である。内容は生化学の単位を取った人なら容易に理解できる。全32頁で\$3(約600円)、一冊買うともう一冊おまけでくれる(今もこのサービスがあるかは不明。)図が多く、ミオグロビンやリゾチームなど蛋白質の3次元構造が描かれ、これらを巻末の専用メガネで見ると立体視ができるようになっている。英語の苦手な人にも、これらの図を観れば蛋白質を直感的にイメージできるようになるだろう。生化学分野の大学院入試の英語の勉強にもお勧めである。

**田辺 信介 教官 (生物資源化学)**

**1) 奪われし未来**

シーア・コルボーン,  
ダイアン・ダマノスキ,  
ジョン・ピーターソン・マイヤーズ著  
長尾力訳 翔泳社 1997

本書は環境ホルモンの汚染と影響を世界で初めて報告した名著「Our Stolen Future」の訳書である。化学物質の脅威を新しい視点でとらえた話題の書として大きな社会的関心を集めている。

**2) メス化する自然:**

環境ホルモン汚染の恐怖  
デボラ・キャドバリー著 古草秀子訳  
集英社 1998

**小林 修 教官 (附属演習林)**

**1) 植物記**

埴沙萌著 福音館書店 1993

植物は、巧みなしくみを持って生活していますが、私たちは普段、それを意識せずに過ごしていることが多いと思います。ところがこの本を開くと、道ばたの植物の変化に富ん

だ暮らしぶりに驚かされます。この本は、1900枚もの写真で構成された植物の生活の記録です。みなさんは、つる植物のアサガオの茎が、巻きつくものをさがして回転することを知っていましたか。また、ヨモギやカタバミなどが夜に眠ることを知っていましたか。植物の生活の様子、つまり生態を理解することによって、植物はみなさんの中で、ただそこにあるだけの存在から、地球上で共に生きてゆく大切な仲間になることと思います。

2) 森に遊ぶ：どろ亀さんの世界

高橋延清著 朝日新聞社 1992

3) 森はよみがえる：都市林創造の試み  
(講談社現代新書)

石城謙吉著 講談社 1994

\* 4) 森の自然学校 (岩波新書)

稲本正著 岩波書店 1997

請求記号：080/IW/R535

5) 南京大虐殺の現場へ

洞富雄 [ほか] 編

朝日新聞社 1988

6) 人間を幸福にしない日本というシステム

カレル・ヴァン・ウォルフレン著

篠原勝訳

毎日新聞社 1994

先生方へのお願い

図書館では学内LANを使って学生に図書を推薦していただくコーナをホームページに開設しております。

(URL:<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/SHOKAI/index.html>)

推薦していただいた図書はホームページで紹介し、図書館に所蔵のない場合は購入の上、開架室に備え付ける予定です。随時受付しておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

思いがけなくめぐりあった一冊の本によって、人は涙し、小さな言葉によって勇気づけられます。哲学者のマルティン・ブーバーは、「我と汝」の中で真の生は出会いであると述べています。人生という大河の中には、さまざまな出会いがあると思います。ここに紹介した図書が、読者にとって豊潤な一滴になることを願ってやみません。

編者一同

ホームページから

平成10年度 開館予定表

平成10年度附属図書館開館予定表をホームページで公開しております。本館・医学部分館・農学部分館それぞれに開館時間がわかります。図書館ホームページの図書館利用案内からアクセスできます。どうぞ御利用下さい。

URL <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/RIYO/calender98.html>

訂正とお詫び

前号(図書館だより第52号)の愛媛大学記念文庫に掲載しました桃井 齋氏の姓が、柳井になっておりました。訂正いたしますとともに、お詫びいたします。

WebOPAC説明会を開催

下記日程のとおりOPACの使い方と文献の探し方について説明会を実施いたしました。

記

5月25日(月) 午前10時～11時

5月28日(木) 午後3時～4時

今年2月のシステム更新によりOPACがWeb版になったこととあわせて、文献の探し方について説明を行いました。

教官をはじめ、ゼミ単位で参加された学生を含めて約15名の参加がありました。今回使用した資料の利用を希望される方は、学術情報係まで申し出てください。



## 平成 9 年 度 附 属 図 書 館 統 計

## 蔵書冊数

(平成10年 3 月31日現在)

区 分	和漢書	洋 書	計
本 館	623,779 <sup>冊</sup>	261,756 <sup>冊</sup>	885,535 <sup>冊</sup>
医分館	40,992	48,925	89,847
農分館	87,994	22,739	110,733
計	752,695	333,420	1,086,115

## 貸出冊数

区 分	教職員	学 生	その他	計
本 館	2,616 <sup>冊</sup>	63,492 <sup>冊</sup>	1,056 <sup>冊</sup>	67,164 <sup>冊</sup>
医分館	5,468	9,499	365	15,332
農分館	688	7,148	86	7,922
計	8,772	80,139	1,507	90,418

## 増加冊数

区 分	和漢書	洋 書	計
本 館	16,650 <sup>冊</sup>	10,789 <sup>冊</sup>	27,439 <sup>冊</sup>
医分館	1,038	843	1,881
農分館	2,385	522	2,907
計	20,073	12,154	32,227

## 貸出人数

区 分	教職員	学 生	その他	計
本 館	1,379 <sup>人</sup>	33,610 <sup>人</sup>	530 <sup>人</sup>	35,519 <sup>人</sup>
医分館	2,391	5,219	186	7,796
農分館	391	4,143	31	4,565
計	4,161	42,972	747	47,880

## 所蔵雑誌種類数

(平成10年 3 月31日現在)

区 分	和雑誌	洋雑誌	計
本 館	6,700 <sup>種</sup>	3,114 <sup>種</sup>	9,814 <sup>種</sup>
医分館	1,235	1,061	2,296
農分館	1,971	783	2,754
計	9,906	4,958	14,864

## 学外文献複写受付件数 (現物貸借を含む)

区 分	大学図書館	その他	計
本 館	2,503 <sup>件</sup>	218 <sup>件</sup>	2,721 <sup>件</sup>
医分館	2,247	312	2,559
農分館	1,225	26	1,251
計	5,975	556	6,531

## 受入雑誌種類数

(平成 9 年度)

区 分	和雑誌	洋雑誌	計
本 館	3,841 <sup>種</sup>	1,710 <sup>種</sup>	5,551 <sup>種</sup>
医分館	677	554	1,231
農分館	817	330	1,147
計	5,335	2,594	7,929

## 学外文献複写依頼件数 (現物貸借を含む)

区 分	大学図書館	その他	計
本 館	3,768 <sup>件</sup>	339 <sup>件</sup>	4,107 <sup>件</sup>
医分館	5,301	66	5,367
農分館	1,677	48	1,725
計	10,746	453	11,199

**（附属図書館委員会委員）**

（平成10年4月1日現在）

附属図書館長 小西 永倫(11. 3. 31)  
医学部分館長 鳥居 本美(11. 2. 28)  
農学部分館長 宮内 定基(10. 10. 31)  
法文学部 大西 貢(11. 3. 31)  
藤川 研策(12. 3. 31)  
教育学部 加藤 國安(11. 3. 31)  
佐藤 栄作(12. 3. 31)  
理学部 向井 和男(11. 3. 31)  
野田 善郎(12. 3. 31)  
医学部 安川 正貴(11. 3. 31)  
工学部 井上 賢三(11. 3. 31)  
平岡 耕一(12. 3. 31)  
農学部 逸見 彰男(12. 3. 31)  
事務局 長 田中 勇

（ ）内は任期

**（図書館日誌(会議, 研修)）**

4月7日 平成10年度新入生オリエンテーション  
～8日  
4月23日 第46回中国四国地区大学図書館協議  
～24日 会総会（於：徳島市）  
第25回国立大学図書館協議会中国四  
国地区協議会  
館長・部長・管理課長出席  
5月18日 平成10年度第1回医学部分館図書・  
情報委員会  
5月21日 第69回日本医学図書館協議会総会  
～22日（於：自治医科大学）  
5月26日 国立大学附属図書館事務部課長会議  
（於：東京医科歯科大学）  
部長・サービス課長出席

**（お知らせ）**

**夏季休業中の開館日時について**

8月1日(土)から9月30日(水)まで夏季休業になりますので、本館・農分館の開館日時及び休館日が次のとおりになります。

**本館**

開館日時：月曜日～金曜日 9：00～17：00

休館日：土曜日、日曜日及び国民の祝日

医分館 平常どおり

**農分館**

開館日時：月曜日～金曜日 9：00～20：00

休館日：土曜日、日曜日及び国民の祝日

**図書の特別（長期）貸出について**

本館および農学部分館では、夏季休業にともない次のとおり特別（長期）貸出をします。本館は資料サービス係、農学部分館は情報サービス係で手続きをしてください。

貸出冊数：5冊以内

取扱期間：7月21日(火)～8月31日(月)

返却期限：10月7日(水)